

# 平成22年度入学式

## 学長告辞



ご入学おめでとうございます。

皆様をこの大学にお迎えすることを大変うれしく思います。そして、新入生のご家族の皆様、ご関係の皆様にご心からお慶びを申し上げます。また、本日ご臨席いただきましたご来賓の皆様にご深く感謝申し上げます。

お茶の水女子大学は、今から135年前、明治7年（1875年）に、日本最初の女性のための高等教育機関、東京女子師範学校として国によって設立された最も伝統のある国立の女子大学です。設立当時は、「お茶の水」の地にありましたが、その建物が関東大震災で焼失し、その後、現在の大塚の地に移り、昭和7年（1932年）、今から78年前にこの本館が建てられました。この建物は国の登録有形文化財に指定されておりますが、建物の外壁は「スクラッチタイル」といわれる特殊なタイルで創られていて、当時の建築の特徴を示しています。また、この建物の正面玄関には大理石が敷かれていますが、これはヴェルサイユ宮殿に使われているのと同程度の質の高いものとも伝えられています。このことに象徴されるのは、当時、この大学への期待がいかに高く、またその存在意義がいかに重要視されていたかということです。

東京女子師範学校は、女性が高等教育を受け教員として経済的に自立することを、そして、日本の知的水準の向上に寄与することを目的に設立されました。

今日のお茶の水女子大学の使命は、女性が社会的に自立できる力を養成することはもちろんですが、女性の社会的活躍によって、日本社会の活性化を促し、日本の科学と文化をその特性のままに世界に発信し、国際社会に学術的に貢献することにあるといえましょう。

先日、国立大学法人評価のランキングが報道されましたが、お茶の水女子大学は全国86の国立大学の中で第5位と高く評価されました。この評価は、おもに教育、研究、社会貢献、業務運営についての活動の評価ですが、教育、研究については特に高い評価を受けました。ランキングは相対的なものであり、どちらかといえば量的な判断ですし、それに対して、教育や研究の水準や成果はそうにしては測れないものであり、また、短期的に判断できるものでないこともまた真実です。しかし今回の高い評価は、お茶の水女子大学の創設以来の教育と研究の実績への評価であるといつてよいと思います。高い評価を得たこの教育と研究の基盤は、その能力に秀でた教員と、極めて優秀な学生による「類まれな」教育の実践にあります。

「類まれ」といいますのは、ひとつは、学生の個性と能力を尊重し、少数精鋭の教育を行っていることです。本学ではほとんどの授業が少人数で行われます。したがって、授業中の発言の機会はもちろんのことながら多くありますし、他人の考え方、自分と異なったものの見方に接する機会も多く、その過程で学問的専門的なコミュニケーションの能力が鍛えられます。

また、学部は三学部ありますが、それぞれの学部の先生方の多くが顔見知りという大学も珍しいといわれています。したがって、おの



ずから三つの学部を隔てる壁は低く、多様な学問に親しむことが可能な教育プログラムも組まれています。つまり、主たる専門を深化させながら、同時に、専門領域を超えて課題を探究する領域横断的な視点を身につけることができるのも、この大学の教育に特徴的な点です。深い専門性は広い視野をもつことによってはじめて可能になる、といえます。

この大学は、学生同士、学生と教員、そして教員相互の分野を超えたコミュニケーションが日常的に行われ、その中で一人ひとりがお互いに切磋琢磨し、専門性を身につけ、人として成長できる環境なのです。

お茶の水女子大学のこうした環境の中で皆様が存分にその持てる能力を磨かれますよう期待しています。



大学での学びがこれまでと大きく異なる点は、正解がないこと、そればかりでなく、問題をも自ら発見し、解決の方法を試み、検証し、新たな理論を創り出すことが求められる、ということです。そこでは、問いを立てる個々人の独創性と新たなものを創り出す創造力が求められます。ですが、そのためには確かな知識を習得しておくことが大切です。そうでないと、主張は独断的になり学問ではなく単なる教説になりかねないからです。

「知は力である」というフランシス・ベーコンの言葉があります。「人の知とその力は同じものである」ともいわれますが、これは対象をよく観察し吟味し知ることによって、法則を見出し、変化を予測する力を得るといえるでしょう。私たちは、高い見識をもった人を育てることを使命と考えていますが、高い見識をもつ人とは、学び、観察し、「知」を身につけることによって、問題を発見し、吟味し、判断し、新たな知を創造する「力」を備えた人を意味します。「知」を「力」となすために、皆様はこの大学でそれぞれの関心の赴くまま、多くの「知」を身につけ、勇気をもって自らの可能性を試し、新しい分野を切り拓く「力」を獲得してください。

今日お渡ししている資料の中に、「MIGAKAZUBA」というリーフレットが入っていますが、「みがかずば」とは、

みがかずば たまもかがみもなにかせん

学びの道も かくこそありけれ

という校歌に因んだものです。これは日本で最も古い校歌といわれていますが、この校歌にあるように、皆様が学生時代に自らの知を磨き、自信と勇気をもって社会に巣立つための力を学生生活の間に獲得していただきたいという思いをメッセージとしてリーフレットにしたものです。学生生活は社会に向かう一つの大切なプロセスと考えて、失敗を恐れず、勇気をもって自らの可能性を試してみてください。

「お茶大に来て本当に良かった」という学生の声をよく聞きますが、皆様もこの大学で充実した学生生活を過ごし、そして4年後には多くの力を身につけて、この講堂、「徽音堂」から社会へと巣立って行かれることを期待しています。「徽音」とは、美しい音、よい言葉、尊い教えや徳を意味します。70年以上にわたって入学式と卒業式が行われたここは、いわば大学時代の原点となるような空間です。大学生活を、今、この場から始め、かけがえのない時を共に刻み、一人ひとりの歴史と、そして、大学の歴史を豊かに刻んでまいりましょう。

「知は力である」。これからの4年間に得る「知」が学問を拓く「力」となり、皆様の未来へ向けての「力」となることを確信しています。

ご入学をお祝い申し上げ、皆様を心から歓迎いたします。

お茶の水女子大学長

羽入 佐和子



平成22年度入学式  
学長告辞